

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520784

研究課題名(和文)内海忠司日記研究 SMART = GS ツールを応用したテキストデータ化と分析

研究課題名(英文)The Research of Utsumi Chuji's Diary -- Analysis based on applying of SMART-GS Tool to decipher the personal Diary into Text Data

研究代表者

近藤 正己 (KONDO, Masami)

近畿大学・文芸学部・教授

研究者番号：70247956

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、植民地官僚であった内海忠司の日記を、京都大学で開発された SMART = GS ツールを応用して協同翻刻し、そこで得られた京都帝国大学法科大学時期、内地に勤務した官僚時期の日記データを、日本の官僚の形成システム、および官僚の行動様式、官僚間の人的ネットワークなどの観点から分析することによって、日本における植民地官僚が輩出される事情の一端を詳細にさぐるうとするものであり、帝国日本を官僚の視点から捉え直そうとしたものである。

研究成果の概要(英文)：This course analyzes digital data for Utsumi's diary written during 1910 to 1927, obtained by utilizing SMART-GS Tool, a software program created and developed by National Kyoto University. It is based on three perspectives, the formation of Japanese bureaucratic system, it's mobility and networking among the bureaucrats. Furthermore, the research explores in detail the facts and the factors that contribute to the rising numbers of Japanese Colonial bureaucrats. With the bureaucrats' point of view, attempt is then made to re-evaluate the Japanese Empire.

研究分野：日本植民地研究

キーワード：植民地研究 官僚研究 日記研究 日本近代史 京都帝大 台湾研究 植民地官僚

1. 研究開始当初の背景

(1) 科学研究費補助金基盤研究(C)「台湾総督府地方長官・内海忠司関係文書による植民地官僚研究(平成20年度～平成22年度、研究代表者近藤正己)を受け、また科学研究費補助金(研究成果公開促進費、平成23年度)の交付を受け、その成果として『内海忠司日記1928-1939 帝国日本の官僚と植民地台湾』(京都大学学術出版会、2012年)が刊行された。

(2) 日本植民地官僚研究の先行研究としては、すでに岡本真希子『植民地官僚の政治史』(三元社、2008年)、松田利彦・やまだあつし編『日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚』(思文閣出版、2009年)などがあった。

(3) 台湾では、林献堂の日記である『灌園先生日記』全27冊が2013年に出版が完成し、台湾人側の中心人物の日記も出揃い、植民地時代の日記研究の基礎も整った。

2. 研究の目的

(1) 内海忠司日記は、日本植民地官僚ばかりでなく、官僚研究、日本近代史研究などにとっても一定の価値があるので、それを翻刻することにより歴史史料の共有化につとめ、歴史研究の実証性を高めたい。

(2) 大学在学時から植民地官僚時期、さらには、退官後も植民地統治にかかわった内海忠司の日記は、日本植民地官僚研究の事例史料として一定の解決力を有している。とりわけ、帝国大学法科大学における官僚養成教育、内地および植民地における官僚統治、退職後の植民地統治への関わり方などを分析対象とすることによって、内地官僚と植民地官僚の相互依存関係など現在日本植民地官僚研究が抱えている問題解決の糸口とし、植民地史研究の深化発展をめざす。

(3) 日本植民地研究が深化するなかで、とりわけ問題になってきたのは、内地における官僚と植民地における官僚との関係性と、1930年代後半以後の戦時期における植民地官僚の動向であった。前者に対して、本研究は内海忠司の内地時期と植民地時代の行為、政策などを比較検討することに主眼をおいた。そのため、植民地官僚となるまでの時代の日記を翻刻し、それを読み解くことが求められた。また後者に対しては、内海忠司の退職後の在京時代の行動を中心に検討することが求められた。

3. 研究の方法

(1) 内海忠司日記をデジタル撮影し、その画像を前処理し、文献資料研究用ツールSMART-GSを応用して翻刻するとともに、その機能を駆使して、内海忠司日記を解説・分析する手法を採用した。SMART-GSの応用に関し

ては、京都大学の林晋教授、永井和教授から御教示を得たほか、林晋研究室の研究生からも御助力を得た。

(2) SMART-GSを用いて1910年から1927年の内海忠司日記、および中学時代の日誌などを翻刻した。また、日記に登場する人名を整理し、人物レファレンスとして解説を付け加えながら、官僚ネットワークを作成した。

(3) 内海忠司研究プロジェクトが一堂に集まって討議や議論のために、研究会を開催し、分担作業によって得られた各自の知見を相互に検討するかたわら、学会などで発表することによって他の研究者とも論議し、問題点を整理した。

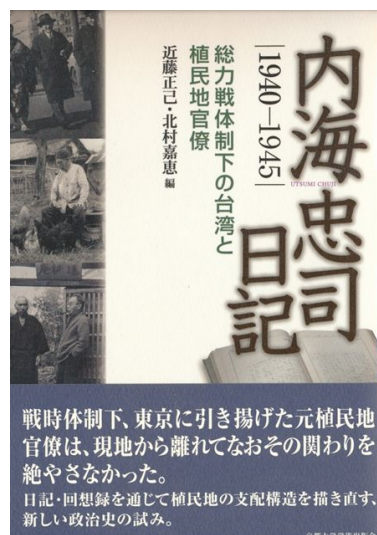
(4) 翻刻作業の一方で内海忠司が台湾総督府を退職した後、南日本化学監査役の時期を検討する作業も続けられた。

4. 研究成果

(1) 内海忠司は、台湾総督府地方長官を退職した後も南日本化学監査役として植民地と関わりをもったが、戦時期台湾の経済、総督府官僚のあり方、戦時下の植民地国策関連会社と軍との関係を分析することができた。

(2) 台湾総督府の高級官僚たちの多くは退職後東京に移動し、台湾倶楽部・台湾協会のメンバーとして台湾統治に関わり続け、植民地と帝国日本をつなぐ纽带としての役割を担っていたことが判明し、植民地統治における東京の占める位置および人的つながりが浮かび上がってきた。

(3) 台湾総督府が中央との折衝機関として東京に設置した東京出張所は、1940年代においても、台湾総督や総務長官、各局長らが中央政府と折衝する拠点であることを確認することができた。



図

(4) 研究の成果の一部は、2013年5月26日に広島大学で開催された日本台湾学会第15回学術大会で、「元台湾総督府官僚・内海忠司からみた植民地支配 戦争・台湾・帝都」をテーマとする分科会が設けられ発表された。それらは、図のように、2014年2月に近藤正己・北村嘉恵編『内海忠司日記 1940～1945 総力戦体制下の台湾と植民地官僚』として京都大学学術出版会から刊行された。

(5) 内海忠司日記 1910～1927年分については、SMART-GSで翻刻しデータベース化したのが、判読困難な箇所は翻刻にあたったメンバーで検討する会合をもった。

(6) 東京帝大法科大学と比較することによって、京都帝国大学法科大学が官僚養成に対して果たした機能を検討し、大正期になると京都帝大法科大学も官僚の人的ネットワークが形成され、そのネットワークのなかで内海忠司と植民地官僚との関わりを検討した。

(7) 日本の植民地官僚を考えるさい、内地勤務と外地勤務のハードルが重要であることが判明した。そこで、内海忠司の内地における警察部長時期と台湾における警務部長期、前者における内務部長期と後者における内務部長期を政策への携わりなどを比較検討することで、帝国日本の内地と植民地の同一性と相違、および官僚が内地と植民地を往来するさいのハードルを問題とした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 4 件)

近藤正己「退職官僚と台湾倶楽部・台湾協会」(日本台湾学会第15回学術大会「元台湾総督府官僚・内海忠司からみた植民地支配 戦争・台湾・帝都」分科会、広島大学開催、2013年5月)

北村嘉恵「台湾総督府東京出張所に関する史的素描 植民地統治のもうひとつの拠点」(日本台湾学会第15回学術大会「元台湾総督府官僚・内海忠司からみた植民地支配 戦争・台湾・帝都」分科会、広島大学開催、2013年5月)

河原林直人「「官」と「民」の狭間に見た戦時期台湾 内海忠司の視点」(日本台湾学会第15回学術大会「元台湾総督府官僚・内海忠司からみた植民地支配 戦争・台湾・帝都」分科会、広島大学開催、2013年5月)

湊 照宏「戦時期台湾の化学企業と軍部：南日本化学工業会社と陸軍」(日本台湾学会第15回学術大会「元台湾総督府官僚・内海忠司からみた植民地支配 戦争・台湾・帝都」分科会、広島大学開催、2013年5月)

〔図書〕(計 1 件)

近藤正己・北村嘉恵編『内海忠司日記 1940～1945 総力戦体制下の台湾と植民地官僚』京都大学学術出版会、2014年、全803頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
近藤 正己 (KONDO Masami)
近畿大学・文芸学部・教授
研究者番号：70247956

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
西山 伸 (NISHIYAMA Shin)
京都大学・文書館・教授
研究者番号：30252406

北村 嘉恵 (KITAMURA Kae)
北海道大学・大学院教育学研究院・准教授
研究者番号：20322779

河原林 直人 (KAWARABAYASHI Naoto)
名古屋学院大学・経済学部・准教授
研究者番号：90434589

湊 照宏 (MINATO Teruhiro)
大阪産業大学・経済学部・准教授
研究者番号：00582917